

〈記録〉

## 方言版『吾輩は猫である』

佐藤 厚

長野県内一北信、東信、中信、南信の各方面と新潟県からも多くの学生達が通う本学。学生達が日常使用している方言の種類も多岐にわたる。そこで学生達の協力を得、出身地域の方言を探り『吾輩は猫である』の冒頭部分を方言で表現してみた。とはいえ、現在学生達が交す日常会話のほとんどは共通語化したものが多く、時折方言が混ざる程度となっているので、今回のサミットに際し故郷の父母、祖父母に聞きながら作成したものである。中には日常使っている言葉が方言とは知らず使用しており、今回の調査で改めて気づいた学生もいた。また、彼女らが使用している共通語化した方言と昔ながらの方言との違いもみられ、今回の調査で驚きと共に深い関心を示し、各地域の方言再発見ともなった。方言には文字化しにくい微妙な音程や発声があるため、以下の方言表記にも難しさはあるが、そのニュアンスを読み取ることも楽しみとした。

### ■長野・飯山地方

おらぁ猫ださ。なめえは、まだねやさ。

どこの出（生まれ）だか、さっばわかんねえやさな。何でも薄暗えしけっぺえとこでニャーニャー泣いてたってことだけは覚（おべ）えてらさ。おらぁここで始めて人間ってせうもんば見た。しかもあとで聞くとな、それは書生ってせう人間の中で、いっちゃんおっかねえ種族であつたっちゃ。この書生ってせうのは、時々おらぁ共（ども）ばしっつかまえて煮て食うってせう話ださ。だっけん、その当時は何てせう考（かんげ）えもねがったから別段おっかねえともおもわねがった。ただ、あんちゃの掌に載せら

んてスーと持ち上げらんだ時何だかフワフワした感じがあったばかりださ。掌の上でちっと落ち付いて書生の顔を見たのが所謂人間てせうもの見始めださ。こん時妙なもんだそもった感じが今でも残ってらさ。第一毛ばもって装飾されてんはずの顔がつるつるしてまーんで薬罐ださ。その後猫にもえらい逢ったけどもこんな片輪には一度も出会はしたこたぁねやさ。そうどこじゃなく顔の真ん中がえれえ出っ張ってらさ。そんでもってその穴ん中から時々ぶうぶうと烟ば吹く。まーんずけぶてくてえれえ弱ったさ。是が人間の飲む烟草せうもんだということば漸く此頃知ったんだ。

### ■佐久（茂田井地域）

おら猫だ。名前はまだねえ。

どこの出かはさっちら分かんねえ。何でも薄暗えじめじめしたとこでニャーニャー泣いていたことだけはおべえてる。おらぁここで始めて人間と言うもんを見た。そらぁ後で聞くと書生という人間でいっちゃんごったくなしょうであったっぺえ。この書生たは時々おらぁをひっ捕まえて煮て食っちむーんと。でもそんなきゃー何もかんげえねかったから、そんねんまくおっかねえとも思わねかった。但彼の掌にいっけられてスーと持ち上げられた時、何だかフワフワした感じがあったばかりだに。掌の上でちっと落ち着いて書生の顔を見たのが所謂人間と言うもの見始めだず。こん時妙なもんだと思った感じが今でも残ってる。第一おらーっくん毛があるはずの顔がつるつるしてまるで薬罐みたもんだ。そんあと猫にもえれえ会ったがこんねんまく片輪な奴には一度も会ってねえ。そんばでなく顔の真ん中がしゃら突起している。そんで其の穴のなかから時々ぶうぶうと烟を吹くに。まーず咽っぼくてめた弱った。是が人間の飲む烟草と言うもんとやっこさ此頃知った。

### ■上田（「武石・立科」地域）

おらぁ猫だ。名前はまだねえ。

どこの出かは、さっちらわかんねえ。何でも薄暗えじめじめしたとこでニャーニャー泣いとったことだけは覚（おべえ）てる。おらぁここで始めて人間ていうもんを見た。そらぁあとで聞くと、それは書生ていう人間でいっちゃんごったくなしょうであったっ

べ。この書生たは、時々おらぁをひっつかまえて煮てくっちむうんと。

### ■佐久穂町地域

おらぁ猫だい。名前はまだねえ。

どこで生まれたか、まぁずわかんねえ。何でも薄暗え湿り気えったとこでニャーニャー泣いとったことだけは記憶してらあ。おらぁこころで始めて人間いうもんを見たに。しかもあとで聞くとな、それは書生という人間とうの中で一番よた種族であったようだに。この書生っちゅうのは、時々おらしょうをひっつかまえて煮てくっちむうつつう話だに。

### ■松本地方（特に語尾の変化に着目したもの。）

吾輩は猫である。名前はまだねえだ。

どこで生まれたか頓と見当がつかねえだよ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャーなっていた事だけは記憶してただ。吾輩はここで始めて人間と言うものを見ただよ。しかもあとできいたらせえ、それは書生という人間中で一番獐悪な種族であっただよ。この書生というのは時々われわれをとっ捕まえてにて食うという話であるだ。しかしその当時は何という考えもなくせえ、別段恐ろしいとも思わなかつただよ。ただせえ、彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつただね。掌の上で少し落ち付いてせえ、書生の顔を見たのが所謂人間というものの見始めだつただ。この時妙なものだと思つた感じがせえ今でも残ってるだよ。第一毛をもって裝飾せればきはずの顔がつるつるしてまるで薬罐だつただ。その後猫にも大分逢つたがこんな片輪には一度も出会わした事がねえだ。しかもせえ、顔の真ん中が余りに余りに突起してただ。そうしてその穴の中から時々ふうふうと烟を吹いてただよ。どうもせえ、咽っぽくて実に弱つただ。これが人間の飲む烟草というものであることは漸くこの頃知つただよ。

### ■飯田地方

わしゃあ猫だに。名前はまだねえんな。

どこで生まれたかかいしき見当がつかん。何でも薄暗えじめじめしたとこでニャーニャー泣いとった事だけは覚えとる。わしゃあここで始めて人間っちゅうものを見たんな。しかもあとで聞くとそれは書生っちゅう人間の中で一番おぞい種族であつたらしいんな。この書生っちゅうのは時々わしゃあ共をしょっ捕まえて煮てまくらうっちゅう話なんだに。

しかしその当時は何という考えもなかったでな別段おっかないとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時にな何だかフワフワした感じがあっただけなんだに。掌の上で少しおちり書生の顔を見たのがいわゆる人間っちゅうもの見始めだすら。この時へんちくりなものだと思った感じが今でも残っとる。第一毛をもって裝飾されとるべきはずの顔がつるつるしてまるで薬罐んな。その後猫にもぎょうさん逢つたがこんな片輪には一度も出会わした事がねえに。のみならず顔のしんとうが余りに突起しとるんな。そうしてその穴の中から時々ぶうぶうと烟を吹くんだに。どうも咽っぽくて実に弱つたんな。これが人間の飲む烟草っちゅうものである事は漸くこの頃知つたんだに。

### ■新潟県上越地方（高田）

おれは猫だっけさ。名前はまだないだっけ。

どこで生まれたか頃と見当がつかないだっけ。何でも薄暗いしっけぼい所でニャーニャー泣きべそだつた事だけは記憶しているんだっけ。おれはここで始めて人間というものを見たっけ。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中でバカ癡悪な種族であつたそうだっけ。この書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話だっけさ。だっけその当時は何という考えもなかったから別段おっかないとも思わなかったっけ。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりだっけさ。掌の上で少し落ちていて書生の顔を見たのがいわゆる人間というもの見始めであろっけ。このときもちわるいものだと思った感じが今でも残っているっけ。第一毛をもってじょこぼってされるべきはずの顔がつるつるしてまるで薬罐だっけ。そうだすけ猫にも大分逢つたがこんな片輪には一度も出会わした事がないっけ。のみならず顔の真ん中が余りに突起しているだっけ。そうあいてその穴の中から時々ぶう

ふうと烟を吹くっけ。どうも咽ぼくて実に弱ったんだっけ。これが人間の飲む烟草というものである事は漸くこの頃知ったんだっけ。

#### ■新潟県中越地方（六日町）

おれは猫だぁー。名前はまだねえがってー。

どこで生まれたかいつそ見当もつかねえ。何でも薄暗えじめ〜としたとこでニャーニャー泣いていたことだけは覚えてるてー。おれはここで始めて人間というものを見たてー。それもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番いっそいごうぎんしょだったがーと。この書生というのは時々おらちを捕まえて煮て食うって話がーて。だどもそー、そんな時は何も考えてなかったすけ、べつにおっかねえとも思わなかったて。ただあんじゃさの手に載せられてスーと持ち上げらんた時なんだかフワフワした感じがあったばっかだったて。手の上でちーとばかし落ちて着いて書生のツラを見たんがが、いわゆる人間というものの見始めだべなー。こん時変なもんだと思った感じが今でも残ってるて。だいたい毛だらけなってるはずのツラがつるつつるして葉罐みてえだ。その後猫にもいっぺーこと逢ったがーどもこんげな奴には一度も会ったことがねえがって。それだけじゃねくてツラの真ん中がごうぎに出てるんがーて。そんでその穴ん中から時々ふうふうとけぶを吹く。どうもけぶたくて、ほんに弱ったてー。これが人間の飲む烟草ってがをやっとこの頃知ったてー。

#### ■新潟県下越地方（新潟市）

俺は猫られ。名前はまだねえすけ。

どこで生まれたかほんに見当がつかねえれ。何でもうすぐれえじめじめした所れニャーニャー泣いていたことだけは記憶してるてえ。俺はここで始めて人間というものを見た。しかん後れ聞くとそれは書生という人間中でもバカわぁれ種族であったそうらて。こん書生というのは時々俺らを捕まえて煮て食うちまうんらってという話なんらて。しかしそんなときゃ何という考えもなかったすけ別段おそろしえと思わなかったれえ。ただ彼の掌の乗せられてスーとたがえられた時何だかフワフワした感じがあったばっからてえ。掌の上でらっくらして書生の顔を見たのがえいわゆる人間というものの見始

めらろお。こん時妙なもんだと思った感じが今でも残ってるこてさ。第一毛でもって  
装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで葉罐らてえ。そんご猫にもほんねいっぺ  
逢ったろもこんげ片輪にゃ一度も出会わしたことがねえてばね。しかん顔の真ん中が  
バカに突起してるんてえ。そんでその穴から時々ふうふうと烟を吹く。どうもはばけ  
て、ほんに弱ったてばね。これが人間の飲む烟草だっていうんば、こんごろようやく  
知ったれえ。

<監修：佐藤 厚>